

社会保険業務センター視察の概要  
(高井戸庁舎～三鷹庁舎)

1. 日時

平成19年7月26日(木)

11:30～ 高井戸庁舎、13:30～ 三鷹庁舎

2. 参加者

葛西委員長、大宅委員長代理、磯村委員、岩瀬委員、住田委員、村岡委員  
村木行政管理局長、田部事務室長ほか

3. 対応者

社会保険業務センター 皆川所長ほか  
社会保険庁(本庁) 泉管理官

4. 概要

① 庁舎内視察(高井戸庁舎、三鷹庁舎)

② 高井戸庁舎での質疑応答

(主なやりとり)

- ・年金記録が保存されている磁気テープ、マイクロフィルム、紙のそれぞれについて、媒体の劣化等により判読もしくは使用が不能となっているものの割合はどの程度かとの質問に対し、それほど多くないと思うが具体的には把握しておらず、磁気テープの劣化状況についての技術者による確認も行っていない旨の回答があった。
- ・システム最適化による新システムは、分離調達を行っているとのことだが、各調達への参加企業数を教えて欲しいとの質問に対して、基本設計については、説明会に20社が参加し、実際に入札したのは、適用ソフト1社、徴収ソフト2社、給付ソフト2社、支援ソフト3社、基盤ソフト及び工程管理の調達に1社との回答があった。
- ・戦争時に記録を疎開させ、それをまた東京に戻した際に、持ち出した記録は漏れなく戻ったことが確認できているのか、古い職員の中にはかなり散逸したと言っている者もいる、との質問に対し、すべて戻したと申し送りされているが、冊数などが文書で記録されているものではない旨の回答があった。
- ・事業所が提出する適用届出書の中に、氏名が記載されていないものや読めないものがあり、コンピュータにも入っていないものがあるのではないかと質問に対し、氏名がなくても事業所名、生年月日、手続番号で名寄せは可能であり、コンピュータに入っていないものは今後入れる旨の回答があった。
- ・今後行われる名寄せ作業に要する人員配置と工程表が欲しい旨の依頼に対し、本庁運営部企画課の仕事であり、次回の委員会で説明する旨の回答があった。

・「5,000万件の実態を詳しく精査したうえで、対策パッケージを作成せよ」という指示があったはずだが、精査することなくパッケージを作成したのか、との質問に対し、8月に経済団体と協力してチームを立ち上げて本格的な分析に取り掛かる旨の説明があった。

これに対して、委員から、8月から取り掛かるということは、今まで何もやっていないのか、これだけ大きな問題となり、国民に不安を与えているのだから、本庁からの指示がなくても、それほど手間をかけずに確認できることがあれば、現場として取り組むべきではないかとの質問があり、これに対して、一定の条件さえ入力すれば、ある程度の中身はわかってくるが、基本的に本庁からの指示がないので取り掛かっていないとの回答があった。また、そのような作業を行う場合、組合との相談が必要になるのかとの質問があり、全国的には分からないが、当センターでは必要ないとの回答があった。

— 以上 —